

第2回 仙台市総合計画審議会市民の暮らし部会議事概要

この議事概要は、事務局の責任においてとりまとめた速報であり、事後に修正する可能性があります。なお、正式な議事録については、別途ホームページに掲載しますので、そちらをご覧ください。

日 時	平成22年8月19日（木） 16：30～18：30
会 場	仙台市役所2階 第7委員会室
出席委員	小松洋吉部会長、水野紀子部会長代行、足立千佳子委員、阿部一彦委員、内田幸雄委員、大村虔一委員、佐竹久美子委員、鈴木由美委員、西澤啓文委員、針生英一委員、樋口稔夫委員、柳生聡子委員 [12名]
欠席委員	菊地昭一委員、庭野賀津子委員、永井幸夫委員 [3名]
仙 台 市	企画調整局長、企画調整局次長、総合政策部参事、総合計画課長、総合計画課主幹（2）
次 第	1 開会 2 議事 (1) 基本計画（中間案）について (2) その他 3 閉会
配付資料	資料1 仙台市基本計画（中間案）第1章 総論・第2章 重点的な取り組み 資料2 仙台市基本計画（中間案）第3章 分野別計画 資料3 仙台市基本計画（中間案）第5章 総合計画の推進に向けて 資料4 基本構想・基本計画の全体構造 参考資料1 仙台市基本構想（中間案） 参考資料2 仙台市基本計画（中間案）第4章 区別計画 参考資料3 仙台市基本計画「仙台21プラン」の振り返り

会議の概要

議事

(1) 基本計画（中間案）について

- ・事務局から資料1～4、参考資料3を基に説明し、意見交換を行った。

<主な意見等>

- ・参考資料3の10ページの町内会加入率について、この10年で減少した理由はなにか。マンションでの加入率が低くなっているという話は伺っている。
- ・資料1の13ページ、JR、高速バス、地下鉄東西線などと限定列記しているが、実際は南北線の方が需要も輸送量も多く、都市圏としても北の方に伸びているので、「地下鉄など」としてはどうか？
- ・資料1の19ページ、職員の市民活動への参加について、市の職員は地域に帰って、あまり地区活動に専念していないとよく聞くので、行政自らが率先してやっていくというにした

方が市民からの理解が得やすいのではないか。

- ・少々漠然とした話だが、社会経済情勢の変化で、大きな変革をしないと予算もなにも成立しないという状況の中で、仙台市はどう変わっていこうとするのか、今までやってきた方向と変革しなければいけない視点というのはどの辺にあるのかをもう少し書いてくれると、後から出てくるさまざまな施策などが見えやすくなるのではないか。

いろいろな個別の事象について記載し、方向性については、重点的な取り組みに対し、都市経営方針の重視を打ち出したつもりだが、なお表現について考えていきたい。

- ・資料1の6ページ、「(2) 少子高齢時代の支え合い社会づくり」で、ノーマライゼーションの理念に基づくというのはとても大事なことだが、現在、社会福祉領域ではより積極的な意味でソーシャル・インクルージョンという、一人一人の役割をその社会の中で生み出して支援するという考え方もある。ぜひ検討してほしい。
- ・資料2の7ページ、「高齢者が元気で安心して暮らせるまちづくり」について、最近、独居老人が相当増加しているので、安否確認や普段の生活支援など、そういったものに対しての基本的な施策がここでは読み取れない。町内会や民生委員で対応していくことが、非常に困難になってきている。きちんとやっていくための体制づくりが必要ではないか。行政としてもさまざまな場面で支援などに努めたいということで記載しているが、特記するか否かについては関係部署と協議しながら検討したい。
- ・分野別計画のそれぞれのタイトルが、かなりお互いに言葉が重複しており、それをどういうふうに分けているのか、もう少し見えやすくした方がいいのではないか。
- ・資料2の9ページに、「家庭、地域、学校の連携による家庭と地域社会の教育力の向上」とあるが、その中に企業も入れるべきではないか。例えば10ページに「職場見学」、「職場体験」とあるが、これには企業の協力が必要になる。また、11ページの「企業に対する育児支援制度の普及・啓発」となると、育児だけではなく、健全な家庭づくりに向けた企業のバックアップをしていかなければいけない。
- ・市民教育という部分をきちんと位置づけていった方がいいのではないか。国でもシチズンシップ教育というものを徐々にその方針の中に入れ始めている。新しい公共を担う意識を育てていく、自分も市民の一員として市民協働を支えていくという意識をもつ、そうした次の世代を育てていくためにも、市民協働だとか社会形成、社会参加に関する教育について、方向性を記載すべきではないか。
企業との連携や市民教育などについては、非常に重要な事項であると認識している。資料1の16ページにも記載しているが、市民力を伸ばすという部分が市民教育にあたると思うが、この辺の記述については、重点的な取り組みと分野別計画との書き分けが課題となっている。全体として方向性がある程度固まった段階で書き分けや、ちりばめ方についてさらに検討していきたい。
- ・子供たちの問題について、健康な家庭のサポートは随分記述があるが、児童虐待などの病理を抱えている家庭へのサポートについて、より具体的に記述できないか。
児童虐待については、取組の強化の必要性は認識している。
- ・資料1に関連する話だが、ネットワーク、コンピュータによって社会のあり方が大きく変わってきてしまったということについて、どのように今回の計画の中に書き込んでいくの

か、そうした視点が少々足りない気がした。

確かに視点というものを示していないので、今後検討したい。

- ・市民の暮らし部会はソフトの話が中心になるが、ハードが絡まないとなかなか上手くいかないものが当然にある。そのハードについて、それをどこで扱うのか、どこで実現されるのかが分かりやすくなればよいのだが。
- ・資料2、(3)の「子どもたちが健やかに育つまちづくり」と、資料1の「ミュージアム都市」づくりに関連した話だが、子供にとっての学びを考えた際、ミュージアムで学ぶほか、もっと身近なところで学びや遊びが実践できる環境を充実させる視点が必要ではないか。地域のいちばんの拠点は公園だと思うが。
- ・子育ての点から考えて、ここ10年程、仙台市の児童館は非常に良くなった。たくさんの人が集まり、いろんな交流の場になって親もそこで学べる。地域の中で子育てのネットワークができて、一時預かりなど、知り合った仲間同士での助け合いが生まれている。そうした身近な公園や児童館などの充実も、ミュージアム都市構想や明るく元気に子供が育つ環境づくりの中に盛り込んでいければよいのではないか。
ミュージアム都市構想については、いわゆるミュージアム、社会教育施設だけではなく、地域にある路地裏や里山、田園などのさまざまな学びの場を、地域みなさんと一緒に発見してつないでいくというようなテーマにしたいと考えている。地域における公園の重要性はご指摘のとおりであり、子供たちが学ぶ環境づくりというものを進めていきたい。
- ・資料2の15ページ、「市民の健やかさを生み出すスポーツの振興」だが、以前いただいた資料で、小学6年生の体力テストの結果が政令指定都市で最下位であった。ライフステージに応じてスポーツを楽しむことができる環境づくりを強固に進める必要があるのではないか。里山もミュージアムの一つとの話だったが、遊べる里山が一体どこにあるのか。屋外プールも西公園プールがなくなり、各区の室内プールは四角くて、ひたすら泳ぐだけ。これでは何も学べないと思うが。
- ・資料2の13ページ、「区役所と市民センターが一体となった地域支援体制の構築を進める。」とあるが、社会教育の位置づけが不明確になっている。社会教育として、そこで学んだことを地域で生かしていく、それがまちづくりにつながっていく、そのための市民センターの位置づけを明確に書き込む必要がある。
- ・学校と市民センターの連携は、地域づくりの中で一つの核になるのではないか。市民センターの地域拠点としてのあり方、また、社会教育との連携の仕方、学校教育との連携の仕方などについて戦略的な記述が必要ではないか。
学校と市民センターの連携については、思いは全く同じ。それをどのように表現するか今後検討していきたい。
- ・市民力について、便利な言葉だからこそ、これはあるものを活用するのか、それとも育成する場面をつくるのか、全体で見ながらしっかりとらえる必要があると改めて感じた。
市民力の定義については、資料1の16ページにある、さまざまな主体が「都市や地域における課題の解決や魅力の創出に自ら取り組もうとする市民の力」と定義して、混乱しないように使っていきたい。
- ・総合計画の下にいわゆる教育振興基本計画があるが、総合計画の方がよほど具体的な中身

になっている。総合計画で具体的な言葉を出しながら、その下の振興計画で抽象化するというねじれ構造みたいなのところを少し感じた。

同時並行的に改訂が進んでいる計画とも連携しながら分野別計画を作成しているところだが、ある程度具体化を急ぐ中でタイムラグが発生しているものもある。関係部局との連携を強めて、相違のないように進めて参りたい。

- ・児童虐待に関して、今、一番必要なのは児童相談所の人手とその育成である。誰でもそうだが、いきなり児童虐待の対応ができるものではない。対応を検討いただきたい。
- ・ミュージアム都市という表現について、狭義で使われる意味では美術館や博物館などをさすが、ここでは仙台市全体をミュージアムとしてとらえるという表現にしている。ただ、外から見た場合、ミュージアムもあまりないのになぜミュージアム都市というのか、聞かれて困るのではないか。
- ・ミュージアム都市に関する記述が多いが、市民にすんなりと受け入れられる言葉なのかどうか、非常に疑問。言葉としてはあまり使わない方が良いのでは。
都市の魅力部会でもいろいろご指摘をいただいている。市民力を生かしていく部分と、都市像自体、学び・支え合うという部分を重視して、都市づくりやさまざまな政策分野につなげていく、そういう観点でミュージアム都市構想について、それ自体を都市のブランドに高めていくべきではないかという指摘もいただいている。そのあたりの表現がまだはっきりしない部分もあるので、そういった方向で加筆修正を進めていきたい。
- ・仙台という街が、歴史をずっとさかのぼって、ここでこんなことがあってこんな街だったんだってということが重層的に楽しめるような街になれば、非常に魅力的。
- ・観光などの面で他者から見た場合に仙台がミュージアム都市になれば良いと思うが、暮らしている市民にとっては現実的には違和感があると思う。外から来た人向けのミュージアム都市と同時に、地域の中の自分たちの地域のミュージアム的なものを充実させていかないと他人事みたいになってしまう可能性がある。
- ・資料2の4ページ、仙台にあるいろいろな公的な資源それから里山についての資源を生かしていくことを考える際、広い意味での市民の精神的な健康づくりという点で、仙台が有している大きな2つの温泉、秋保と作並温泉について、もう少し市民が幅広く活用できる施設の整備などができないか。これだけ大きな温泉街を抱えながら、仙台市民に対するリーズナブルなサービスが提供できていないと感じている。
- ・他世代の人たちとの交流の場がない。仙台に暮らしていてすごく感じる場所。例えば、子育ては子育て、高齢者は高齢者というような分け方だけではなく、さまざまな世代がかかわりあって生活していけるようなまちづくり構想ができればよいと思う。

(2) その他

- ・事務局から参考資料1、2について説明した。